

看護学科のカリキュラムの歩み

元教務委員長 小野沢 康 子

1. 本学看護学科のカリキュラムの特徴

本学看護学科は、平成6年度に第1期生100人の入学生を迎えて以降、平成13年度に第8期生100人の入学を最後に、平成16年3月をもって閉校に至っている。

この10年間に於いて、本学看護学科の当初のカリキュラムは、平成2年4月1日保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の一部を改正する文部省・厚生省令の施行に基づいて編成されている。

本学看護学科のカリキュラムの特徴を上げるとすると2つほど上げられる。その2つに共通する事は、看護学の専門分野にこだわらず看護学教員全員で、1学年100人の学生を1グループ10人前後のグループに分けて、看護基礎教育の中でどの分野にも共有できる技術を教授する科目を開設したことである。一つは、2年次後期に開設している「看護過程の展開の演習；平成10年度生までは成人看護学実習Ⅲに組み込まれていた。」である。看護のどのような場面にも共通して使うことのできる「看護過程の展開」の技術を、学生と共に理解を深める目的をもって教授した科目であった。もう一つは、3年次後期に開設している「訪問看護実習；平成10年度生までは成人看護学実習Ⅳに組み込まれていた。」である。看護の対象の生活の場は、病院から自宅へが代表的である。看護は社会情勢を鑑みて施設内および施設外で、必要とされている看護行為を、教育の場から積極的に発信する目的で教授した科目である。

保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則は、昭和24年5月20日に文部省、厚生省令で公布されて以降、平成16年までに3回、指定規則の一部の改正が行われた。この改正ごとに、看護基礎教育は学問体系に近づくようになった感がある。

1) 第1回目の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の改正

昭和42年11月30日文部省、厚生省令公布並びに施行の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の一部改正の趣旨は、「医療、看護の進展および看護教育

のすう勢にかんがみ、教育内容の向上を図るため」¹⁾として改正された。

改正内容は、授業科目を「基礎科目」と「専門科目」とに大別し、専門科目は、昭和24年5月20日公布の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則において、授業科目のうち「看護学」でくくられた看護学内訳（例えば、看護史及び看護倫理、看護学理論及び実地等、12科目）を、「看護学総論」「成人看護学」「小児看護学」「母性看護学」の4体系に分類した。

また昭和20年代後半から看護基礎教育は短期大学教育も始められるのに伴い、この「教育内容を短期大学である看護婦学校に適用するにあたっては、短期大学設置基準との適合をじゅうぶん考慮して運用する」²⁾という留意すべき事項が示された。

2) 第2回目の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の改正

平成2年4月1日文部省、厚生省令施行の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の一部改正の趣旨は、昭和50年代の日本の社会が「人口の高齢化、疾病構造の変化、医療の高度化、専門化、在宅医療の推進など、看護職員を取り巻く環境が著しく変化し、看護職員に求められる能力や役割が拡大してきていることを受けて、それにふさわしい教育内容とすることを目的」³⁾として改正された。

改正内容は、看護基礎教育において成人看護学に組み込まれていた老年者の看護を独立させ、「老人看護学」を科目立てし、専門科目を先の4体系から5体系に分類した。さらに、この改正の特徴は、看護基礎教育の授業科目は「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に大別し、授業科目の分類を高等教育機関の学問体系に近づけるとともに、教育課程の必修授業総時間は3375時間から3000時間に減少させ、ゆとりある看護基礎教育のあり方を強調していた。

本学看護学科のカリキュラムは、この改正された指定規則に基づいて表1に示したように組み立てられ、平成6年4月の開学となったわけである。

表1 看護学科平成6年度入学生から平成10年度入学生までのカリキュラム

平成6年度, 7年度, 8年度生のカリキュラム (平成2年4月1日文部省, 厚生省令施行)						平成9年度, 10年度生のカリキュラム (平成9年4月1日文部省, 厚生省令施行に 対応した読み替え)					
授業科目			単位	時間	年次	授業科目			単位	時間	年次
基礎 科目	人文科学	哲学	2*	30	3	基礎 科目	人文科学	哲学	2*	30	3
		科学史	2*	30	2			科学史	2*	30	2
		文学	2*	30	1			文学	2*	30	1
		心理学	2*	30	1			心理学	2*	30	1
	社会科学	社会学	2*	30	2		社会科学	社会学	2*	30	2
		法学	2*	30	1			法学	2*	30	1
		教育学	2*	30	3			教育学	2*	30	3
		文化人類学	2*	30	3			文化人類学	2*	30	3
		国際関係論	2*	30	3			国際関係論	2*	30	3
	自然科学	物理学	2*	30	2		自然科学	物理学	2*	30	2
		化学	2*	30	1			化学	2*	30	1
		生物学	2*	30	1			生物学	2*	30	1
		統計学	2*	30	1			統計学	2*	30	1
	外国語	英語Ⅰ	2*	60	1		外国語	英語Ⅰ	2*	60	1
		英語Ⅱ	1*	30	2			英語Ⅱ	1*	30	2
		英語Ⅲ	1*	30	3			英語Ⅲ	1*	30	3
		中国語Ⅰ	1*	30	1			中国語Ⅰ	1*	30	1
		中国語Ⅱ	1*	30	1			中国語Ⅱ	1*	30	1
	保健体育 (講義)		1	15	1		保健体育 (講義)		1	15	1
	保健体育 (実技)		1	45	1・2		保健体育 (実技)		1	45	1・2
専 門 基 礎 科 目	医学概論		1	30	1	専 門 基 礎 科 目	医学概論		1	30	1
	解剖生理学		4	120	1		解剖生理学		4	120	1
	生化学		1	30	1		生化学		1	30	1
	栄養学		1	30	1		栄養学		1	30	1
	臨床栄養学		1	30	2		臨床栄養学		1	30	2
	薬理学		1	30	1		薬理学		1	30	1
	微生物学		1	30	1		微生物学		1	30	1
	病態学Ⅰ (循環・呼吸・腎・泌尿器・ア・膠)		2	60	1		病態学Ⅰ (循環・呼吸・消化・血液)		2	60	1
	病態学Ⅱ (消化・血液・脳・皮膚)		2	60	2		病態学Ⅱ (腎・泌尿器・ア・膠・脳・皮膚)		2	60	2
	病態学Ⅲ (運動器・内分泌・代謝)		1	30	1		病態学Ⅲ (運動器・内分泌・代謝)		1	30	1
	病態学Ⅳ (眼・耳鼻・歯・口腔)		1	30	1		病態学Ⅳ (眼・耳鼻・歯・口腔)		1	30	1
	精神病態学		1	30	2		精神病態学		1	30	2
	生殖病態学		1	30	2		生殖病態学		1	30	2
	小児期病態学		1	30	2		小児期病態学		1	30	2
	老年期病態学		1	30	2		老年期病態学		1	30	2
	公衆衛生学		1	30	2		公衆衛生学		1	30	2
	社会福祉原理		1	30	2		社会福祉原理		1	30	1
	社会福祉制度		2*	30	3		社会福祉制度		2*	30	3
	関係法規		1	30	3		関係法規		1	30	3
	人間発達学		2*	30	1		人間発達学		2*	30	1
	臨床心理学		2*	30	3		臨床心理学		2*	30	2
	放射線医学		2*	30	2		放射線医学		2*	30	2
	リハビリテーション概論		2*	30	2		リハビリテーション概論		2*	30	2
	情報科学概論		2*	30	2		情報科学概論		2*	30	2
	情報科学演習		2*	30	2		情報科学演習		2*	30	1

平成6年度，7年度，8年度生のカリキュラム (平成2年4月1日文部省，厚生省令施行)					平成9年度，10年度生のカリキュラム (平成9年4月1日文部省，厚生省令施行に 対応した読み替え)				
授業科目		単位	時間	年次	授業科目		単位	時間	年次
専門 科目	看護学概論	1	30	1	専門	看護学概論	1	30	1
	看護管理学	1	30	3	専門	看護管理学	1	30	3
	基礎看護技術	2	60	1	科目	基礎看護技術	2	60	1
	基礎看護技術演習	2	90	1	目	基礎看護技術演習	2	90	1
	臨床看護総論	2	60	1		臨床看護総論	2	60	1
	地域看護学	1	30	2		地域看護学☆	1	30	2
	精神保健	1	30	2		精神保健☆	1	30	2
	精神臨床看護学	1	30	2		精神臨床看護学☆	1	30	2
	母性看護学概論	1	30	2		母性看護学概論	1	30	1
	母性保健	1	30	2		母性保健	1	30	2
	母性臨床看護学	1	30	2		母性臨床看護学	1	30	2
	小児看護学概論	1	30	1		小児看護学概論	1	30	1
	小児保健	1	30	2		小児保健	1	30	2
	小児臨床看護学	1	30	2		小児臨床看護学	1	30	2
	成人看護学概論	1	30	1		成人看護学概論	1	30	1
	成人保健	1	30	1		成人保健	1	30	2
	成人臨床看護学Ⅰ	1	30	1		成人臨床看護学Ⅰ	1	30	2
	成人臨床看護学Ⅱ	1	30	1		成人臨床看護学Ⅱ	1	30	2
	成人臨床看護学Ⅲ	1	30	2		成人臨床看護学Ⅲ	1	30	2
	成人臨床看護学Ⅳ	1	30	2		成人臨床看護学Ⅳ	1	30	2
	老人看護学概論・保健	1	30	2		老人看護学概論・保健	1	30	2
	老人臨床看護学	1	30	2		老人臨床看護学	1	30	2
	看護学特論Ⅰ	2*	30	3		看護学特論Ⅰ	2*	30	3
	看護学特論Ⅱ	2*	30	3		看護学特論Ⅱ	2*	30	3
	看護学特論Ⅲ	2*	30	3		看護学特論Ⅲ	2*	30	3
	看護学特論Ⅳ	2*	30	3		看護学特論Ⅳ	2*	30	3
	基礎看護学実習Ⅰ	2	90	2		基礎看護学実習Ⅰ	2	90	2
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45	2		基礎看護学実習Ⅱ	1	45	2
	精神看護学実習	2	90	3		精神看護学実習	2	90	3
	母性看護学実習Ⅰ	1	45	2		母性看護学実習Ⅰ	1	45	2
	母性看護学実習Ⅱ	2	90	3		母性看護学実習Ⅱ	2	90	3
	小児看護学実習Ⅰ	1	45	2		小児看護学実習Ⅰ	1	45	2
	小児看護学実習Ⅱ	2	90	3		小児看護学実習Ⅱ	2	90	3
	成人看護学実習Ⅰ	3	135	3		成人看護学実習Ⅰ	3	135	3
	成人看護学実習Ⅱ	3	135	3		成人看護学実習Ⅱ	3	135	3
	成人看護学実習Ⅲ	2	90	2		成人看護学実習Ⅲ	2	90	2
	成人看護学実習Ⅳ	2	90	3		成人看護学実習Ⅳ☆	2	90	3
	老人看護学実習	2	90	3		老人看護学実習	2	90	3
開設単位総数		127	3465		開設単位総数		127	3465	
は開設選択単位数		(54)			() 内は開設選択単位数		(54)		

注 ☆印の科目は平成9年4月1日文部省・厚生省令施行に伴う新カリキュラムへの読み替えをして文部省・厚生省に提出した。

単位数に*印の科目は選択科目を示した。

3) 第3回目の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の改正

平成9年4月1日文部省、厚生省令施行の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の一部改正の趣旨は、平成2年4月改正の趣旨に「高齢化の進展」と「少子化」を強調ないし追加し、さらに、「看護職員の基礎教育においても科学的思考を基盤とした看護の実践力、保健・医療・福祉全般にわたる広い視野と高い見識、幅広く深い教養と豊かな人間性を養うことが必要とされていること等に対応」⁴⁾とした改正である。

平成2年の指定規則改正で授業科目が3大別された、「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」の名称を、今回の改正では、科目名で規定せずに教育内容を示す、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の名称となった。「専門分野」には、「在宅看護論」と「精神看護学」を科目立てして、「専門分野」を先の5体系から7体系に分類された。

また、「実習」は「病院に限らず、看護が行われるあらゆる場で直接患者、家族などに接する実習を推進するため、臨床実習を臨地実習とした」⁵⁾として、「専門分野」の7体系に「臨地実習」を1体系として位置づけた。これにより、「専門分野」は8体系で構成したことである。

さらに今回の改正では、近年、看護大学の開設増に伴い、専門学校で行われている看護基礎教育に対して、大学設置基準などの整合性を図ることを意図としている。指定規則の教育内容について、時間数による規定から単位数による規定に改め、総単位数は93単位とし、単位の計算方法は大学設置基準の例によることにした内容であった。

2. 本学看護学科のカリキュラムの見直し

1) カリキュラム見直しの経緯

本学看護学科は、平成6年4月1日開校に向けて開学準備室の段階で、来るべき看護教育の改正をにらんで、授業科目が組み立てられた。開学時の本学のカリキュラムは、看護の社会貢献の分野を幅広く体験学習できるように組み立てていたことである。

看護基礎教育で重要な位置を占める臨地実習の教授内容として、基礎看護学では保健所又は市町村保健センターの見学実習を、小児看護学では保育所や重症心身障害児の施設で日常生活援助の実際を体験および見学実習を、成人看護学ではリハビリテーション室や血液透析室の見学実習、また訪問看護実習を、病院

に入院中の病者や施設入所中の入所者を対象とする臨地実習に組み入れた、カリキュラムであった。また、「専門科目」に、「在宅看護」ないし「訪問看護」の社会的需要の高まりを予測し、講義科目として「地域看護学」を科目立てし、臨地実習は「成人看護学実習Ⅳ」の科目を「訪問看護実習」として2単位、90時間を当てた、カリキュラムであった。

平成9年4月に施行された保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の一部改正は、「経過措置として、この省令の施行前に指定を受けた学校又は養成所においては、教育内容は従前の例によることができる。」とあった。このことにより、本学看護学科のカリキュラムは、今回の指定規則の一部改正の趣旨にも合うものとして、学則の変更をしないで、現行の開設科目を、改正された指定規則の教育内容の枠組みに読み替えて、平成8年10月23日に文部省及び厚生省に提出した。

しかし、カリキュラム運用過程において、科目の各々に期待される学習は、おのずと科目名称もその表現をすることの必要性がはっきりしてきたために、学則改正にまで及ぶカリキュラム改正をする機運が生まれてきた。

平成9年4月1日の教授会において「カリキュラム改正検討委員会」の設置が決まり、平成11年度入学生から新カリキュラムで教育するための検討委員会の作業が進められた。

新カリキュラム原案は平成10年6月の教授会で承認を得、学則変更の手続きを経て平成11年度入学生から新カリキュラムで教育が始まった。

この新カリキュラムは平成11年度生、平成12年度生、平成13年度生に実施された。

2) 見直しのポイント (表2参照)

本学看護学科のカリキュラムは、平成9年4月1日文部省、厚生省令施行の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の一部改正内容に基づいて、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の枠組み名称の変更をおこなうことから、下記のようにすすめられた。

(1)、「基礎分野」は、「科学的思考の基盤」に8科目15単位と、「人間と人間生活の理解」に16科目26単位を開設した。「専門基礎分野」から「基礎分野」に配置替えした科目は「情報科学概論」、「情報科学演習」、「人間発達学」、「臨床心理学」の4科目である。「基礎分野」は24科目、41単位をすべて選択科目と

表2 看護学科平成11年度入学生から平成13年度入学生までのカリキュラム

平成11年度、12年度、13年度生のカリキュラム (平成9年4月1日文部省、厚生省令施行)							
授業科目			単位	時間	年次		
基礎分野	科学的思考の基盤	哲学	2*	30	3		
		科学史	2*	30	2		
		物理学	2*	30	2		
		化学	2*	30	1		
		生物学	2*	30	1		
		統計学	2*	30	1		
		情報科学概論	2*	30	1		
		情報科学演習	1*	30	1		
		人間と人間生活の理解	文学	2*	30	3	
	心理学		2*	30	1		
	社会学		2*	30	2		
	法学		2*	30	2		
	教育学		2*	30	3		
	国際関係論		2*	30	3		
	人間発達学		2*	30	3		
	臨床心理学		2*	30	2		
	文化人類学		2*	30	3		
	英語Ⅰ		2*	60	1		
	英語Ⅱ		1*	30	2		
	英語Ⅲ	1*	30	3			
中国語Ⅰ	1*	30	1				
中国語Ⅱ	1*	30	1				
保健体育(講義)	1*	15	1				
保健体育(実技)	1*	45	1・2				
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	1		
		解剖生理学Ⅱ	2	60	1		
		生化学	1	30	1		
		栄養学	1	30	1		
	疾病の成り立ちと回復の促進	医学概論	1	30	1		
		微生物学	1	30	1		
		病態学Ⅰ(腎臓・泌尿器・血液)	1	30	1		
		病態学Ⅱ(消化器・腹部外科・内分泌)	1	30	1		
		病態学Ⅲ(神経内科・脳神経・麻酔科)	1	30	2		
		病態学Ⅳ(運動器)	1	30	2		
		病態学Ⅴ(眼科・耳鼻・歯・口腔・皮膚・7)	1	30	1		
		病態学Ⅵ(老年・精神)	1	30	2		
		病態学Ⅶ(生殖・小児)	1	30	1		
		病態学Ⅷ(呼吸器・胸部外科・循環器)	1	30	2		
		薬理学	1	30	1		
		臨床栄養学	1*	30	2		
		放射線医学	1*	15	2		
		リハビリテーション概論	1*	15	2		
	社会保障制度と生活者の健康	公衆衛生学	2	30	2		
		社会福祉原論	2	30	2		
		社会福祉制度	1*	15	3		
		関係法規	2	30	3		
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	
			看護管理学	1	15	3	
			基礎看護技術Ⅰ	2	75	1	
			基礎看護技術Ⅱ	2	75	1	
看護課程演習★			1	30	2		
臨床看護学総論Ⅰ			1	30	1		
臨床看護学総論Ⅱ			1	30	1		
専門分野			基礎看護学	看護学概論	1	30	1
				看護管理学	1	15	3
				基礎看護技術Ⅰ	2	75	1
	基礎看護技術Ⅱ	2		75	1		
	看護課程演習★	1		30	2		
	臨床看護学総論Ⅰ	1		30	1		
臨床看護学総論Ⅱ	1	30	1				

授業科目			単位	時間	年次
専門分野		看護史★	1	15	3
		看護学特論Ⅰ	1*	15	3
		看護学特論Ⅱ	1*	15	3
		看護学特論Ⅲ	1*	15	3
		看護学特論Ⅳ	1*	15	3
	在宅看護論★	在宅看護概論★	2	30	2
		在宅援助論Ⅰ★	1	30	2
		在宅援助論Ⅱ★	1	30	2
	精神看護学★	精神看護学概論★	1	30	1
		精神保健	1	15	1
		精神臨床看護学	2	60	2
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	1
		母性保健	1	30	1
		母性臨床看護学	2	60	2
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	1
		小児保健	1	30	2
		小児臨床看護学	2	45	2
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1
		成人保健	1	30	2
		成人臨床看護学Ⅰ	1	30	2
		成人臨床看護学Ⅱ	1	30	2
		成人臨床看護学Ⅲ	1	30	2
		成人臨床看護学Ⅳ	1	30	2
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1
		老年保健	1	15	2
		老年臨床看護学	2	60	2
臨地実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	2	90	2
		基礎看護学実習Ⅱ	1	45	2
	在宅看護論★	在宅看護論実習★	2	90	3
	精神看護学	精神看護学実習	2	90	3
	母性看護学	母性看護学実習	2	90	3
	小児看護学	小児看護学実習Ⅰ	1	45	2
		小児看護学実習Ⅱ	1	45	3
	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90	3
		成人看護学実習Ⅱ	2	90	3
		成人看護学実習Ⅲ	1	45	3
		成人看護学実習Ⅳ	1	45	3
		成人看護学実習Ⅴ	1	45	3
		成人看護学実習Ⅵ	1	45	3
	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	90	3
		老年看護学実習Ⅱ★	2	90	3
開設単位総数			131	3525	
()内は開設選択単位数			(49)		

注 ★印の科目は新設の科目である。

注 ★印の科目は新設の科目である。

し、卒業要件は外国語4単位以上修得を含めて、この分野の修得単位は14単位以上とした。「保健体育」の講義と実技の各々の科目も今回の見直しで選択科目にした。

(2)。「専門基礎分野」は、「人体の構造と機能」と「疾病の成り立ちと回復の促進」並びに「社会保障制度と生活者の健康」の3つの柱に、22科目、27単位を開設した。「専門基礎分野」は、18科目23単位を必修とし4科目4単位のみ選択科目とした。

「疾病の成り立ちと回復の促進」の柱は、従来の病態学をもとに内容を見直した。内科的治療を受ける患者の看護に必要な基礎知識としての病態学は、幅広く教授内容を盛り込んでいた。しかし、外科的治療を受ける患者の看護の基礎知識として、外科的治療の知識を看護学生に修得させる教授内容が不足していると考えられ、教授して下さる講師陣を県立中央病院に求め、「腹部外科」、「胸部外科」を病態学の教授内容に明記したことである。

(3)。「専門分野」は、「基礎看護学」、「在宅看護論」、「成人看護学」、「老年看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」、「精神看護学」の7つの柱に、33科目40単位と、「臨地実習」の柱に15科目23単位を開設した。「専門分野」は、29科目36単位と「臨地実習」15科目23単位を必修とし、選択科目は、「基礎看護学」の柱に開設した「看護特論Ⅰ～Ⅳ」の4科目4単位のみとした。

「専門分野」の見直しでは、「在宅看護論」と「精神看護学」の柱に新たな科目を開設する必要性が生じたことが、主な見直しであった。それは、科目名称と教授内容とに整合性をもたせるものであった。「在宅看護論」の柱には「在宅看護概論」、「在宅援助論Ⅰ」、「在宅援助論Ⅱ」の3科目4単位を開設した。また、「精神看護学」の柱には、「精神看護学概論」、「精神保健」、「精神臨床看護学」の3科目4単位を開設したことである。

また、「基礎看護学」の柱には、「基礎看護技術」の教授方法が従来、講義と演習ないし実習とを別々に科目立てしており、講義に続く演習ないし実習の関連性が、ややもすると乖離してしまう危惧があったため、見直しに際し「基礎看護技術Ⅰ」、「基礎看護技術Ⅱ」と、1つの科目の中で講義と演習ないし実習が連動して学習できるように、科目名称と内容の組み替えをおこなった。また、「看護課程の展開」と「看護史」を科目として開設したことである。

「臨地実習」の単位が増加した科目として、「在宅看護論実習」の2単位は、本学では成人看護学実習に「訪問看護実習」を組み込んでいたため、実施に際し問題なく運用できた。その反面、「老年看護学実習」が2単位増えて4単位となり、実習のさせ方に頭を悩ました。結果として、「老年看護学実習」の2単位増加分は、1単位を老人福祉法と老人保健法に基づいて設置された、デイケアを実施している施設に向いた見学実習を、あとの1単位は現時点で施設開拓の困難性から、学内での学習（技術演習等）で教授することになった。

「臨地実習」の単位が減少した科目は、本来の目標が臨地で学習を行わせる科目であったにも関わらず、臨床の場の実状からやむをえず学内の実習室で技術演習を組む教育をおこなっていた科目であった。

「成人看護学実習」は2単位減少し、「成人看護学実習」8単位のうち2単位は、学内の実習室で「成人看護技術の技術演習」や「看護課程の展開」を教授していた。しかし、この2単位は、今回の指定規則の改正で「科目本来の目標に近づけることが大切である」と強調された。そのため、臨床の場と検討を重ねた結果、1単位は「救命救急センター」の見学実習を、1単位は「内科又は外科の外来」で初診患者の看護や外来処置の見学実習を開設し、学内での技術演習は「成人臨床看護学」のシラバスに盛り込むこととなった。

「母性看護学」も、社会の人口構成の変化に対応するかのようになり、臨地実習が1単位減少した。本学看護学科は開学当初から臨床の場の開拓が、「母性看護学実習」において困難をきわめており、1単位は学内実習室で技術演習を教授していた。カリキュラム見直しにおいて、「母性臨床看護学」も「成人臨床看護学」同様、シラバスに技術演習を盛り込むこととなった。

さらに、「小児看護学」も「少子化」の傾向を受け、しかも医療の高度化、専門化も関与して、一般病院での入院児童の占める割合が減少し、小児看護学の臨地実習の場の確保は、本学の開学時点でも困難を極めていた。重症心身障害児施設での実習内容は、対象の入所期間が長期化するに伴い、おのずと対象の年齢も増し、児童から成人に成長した対象の実習内容になっていた。今回の指定規則の改正で「小児看護学実習」は1単位減少して2単位になったのを機に、重症心身障害児施設の実習を取りやめることとした。

まとめ

本学看護学科が開学後の10年間、看護基礎教育を行ってきた足跡を、カリキュラムに焦点を当てて辿ってみた。本学看護学科には地域看護学専攻と助産学専攻の2課程が、開学4年目に開設され、看護職者養成機関として、社会に貢献した実績は重いものがあると感じている。

しかし、看護基礎教育は、現実社会の中で非常に複雑な教育システムを維持しつづけている。このような中において、看護基礎教育に問い続けられているものの一つには、看護技術教育のあり方がある。看護基礎教育の中で、看護技術教育をどのように押し進めていくかの提案は、過去においてしばしば強調されてきたことがある。中でも、吉田と吉武⁶⁾が研究報告した、看護技術教育のあり方も立ち消えになって久しい。そのような中で、本学看護学科は、看護学教員一同が看護技術教育から目を離すことなく取り組んできたのではないかと考える。しかし、自己評価することなく、この教育の場を閉じようとしている。

近年、医学教育や理学療法教育にOSCE (Objective Structured Clinical Examination; 基本的な臨床技能を客観的に評価する方法)を導入する傾向を目にする。

看護基礎教育において、看護技術の教育のあり方として、卒業時点で臨床に提供できる基本的な看護技術の選定と、その看護技術の身についた能力の評価を、どのようにおこなうか、教育と臨床のそれぞれの立場でもっともっと意見交換し、評価基準を作成することが、期待されていると考える。看護職者自らが専門性を自負できるためにも、基礎看護技術教育のあり方の問いは、終わりが無いと考える。本学看護学科は看護教育の時代の波と共に過去の看護教育の場になった。しかしこの教育の場を巣立った800人余りの同胞は、看護職者として、今のこの時間も社会貢献し、自身を磨く努力を惜しまない人間に成長していることを期待している。

文献

- 1) 看護行政研究会監：平成13年度 看護六法，新日本企画，名古屋，2001，p98.
- 2) 同上 p100.
- 3) 同上 p106.
- 4) 同上 p109.
- 5) 同上 p110.
- 6) 吉田時子，吉武加代子：看護基礎教育終了時における看護技術の到達度に関する研究，ナースステーション，

5(4)，68～78，1975.

(新潟県立看護短期大学看護学科長)